

じて学んだことが自分の糧となるからだ。

時間は皆に平等に与えられている。その時間をどう使うかは各自が決めることであり、結果もそれぞれだ。だからこそ、しっかりと自分で考え行動することが大切なのだ。

でも時には、ゆとりとくつろぐ時間もある。無駄ではなく、余裕としよう。

You can fly! 君たちならできる!

『感謝』

古林 正光

毎年、年が明けるとすぐに次年度の授業の準備を始めます。「今年のゴールデンウー

クの連休は十連休。

前期中間考査まではあまり授業日数がないな。」などと考えている中でふと「あと三月でひと区切りだった。」と思い出し、時間が過ぎる早さを今更ながら感じています。

昭和五十二年の春に桜陽高校を卒業し、その後、教員となり、縁があつて母校の教壇に立ち七年が終わります。

桜陽高校の生徒は、良い意味でも悪い意味でも私が生徒であつたころとよく似ています。そんな生徒を「私の後輩たち」という思いを加えながら叱咤激励してきました。卒業後、それぞれの道を歩き始めた後輩たちに、これからもエールを送りたいと思います。最後に、私を支えてくださった保護者の皆

さん、同窓会の皆さん、同僚の皆さんに心から感謝致します。

『分かれ道と決断』

本庄 良宏

この職業に就いて三十年以上が経つ。新人の頃は退職などということは全く考えなかった。いや、考える暇がないほど毎日の仕事に追われていたと言ふべきだろう。「過去・現在・未来」で言えば、現在がほぼ全てであつた。

現在はどうのような時代であろうか。もちろん、個人によつて認識は異なるであろう。「良い時代だ。不安など感じない」と言う人

もいるだろうが、少数派であろう。「不安だ」とか、「今までのことが通じない危機的な状況だ」と感じている人が多いのではないだろうか。

危機的な状況は辛いものである。今までのやり方が通用しない。これからの方策が見つからない。それでも何らかの決断をしなければならぬ。しかも、その決断には外部からの批判が待っていることが通例である。

しかし、未来を創る第一歩であると考えれば、危機も悪くないのではないか。そもそも危機（クライシス）の語源は「決断する」という意味のギリシャ語、クリネインであり、そこから「分かれ道」という意味もクライシスにはある。その分かれ

道では、「過去を学び、現在の問題点を確認し、未来のあるべき姿を描く」ことが求められる。それは幸せなことではないだろうか。

生徒の皆さんには永い未来が待っている。良い時もあれば、辛い時もあるだろう。辛い時でも、決断を楽しむ心の余裕を持つてくれたらと思う。今まで関わった多くの皆様、色々とありがとうございました。さようなら。

『熱帯の島』

高橋 克哉

早朝、ジャカルタの国際空港に到着した。国内線に乗り換えるための空港内だけの滞在である。はじめてのインドネシア、首都を観光できないのは、とても残念だが、次の機会があるだろうと自分を納得させた。やや小さな航空機で隣の島、バリ島にやっとたどり着いた。成田から約十一時間。長かった。独特の香辛料の香りや腐臭の漂う市場を冷やかした。夜は有名なケチヤックダンスを鑑賞だ。内容は「ラーマヤナ」が題材だということだ。激しいリズムのかけ声と妖艶な踊りに魅了された。終了後、演者た

ちに記念撮影をお願いした。舞踊の衣装がとてもきれいだっただのと王妃役の娘たちが、とてもかわいらしかったのが、希望した理由だ。撮影の後、お札にチップ程度と思い、劇団の代表に千円を渡した。すると、十数名いた男女は、皆一様に飛び上がらんばかりに大喜びの様子であった。後から考えると、当時、日本との貨幣価値の差が百倍くらいだったか。当然、物価も驚くほど安かった。彼らにしてみれば、数ヶ月分の給料にも等しい謝礼だったのかもしれない。夕方以降の思い込んでいたスコールが、真夜中ホテルの屋根を叩いた。

翌日、再び国内線でジャワ島に移動した。古都ジョクジャカルタ

近郊には、ヒンドゥー遺跡のブランバン寺と仏教遺跡のポルブドゥールがある。全く別の宗教の巨大遺跡が混在している不思議さを満喫した。少し離れたポルブドゥールまでの移動中の車窓からは、きれいな形状の成層火山をいくつか見ることができた。さすが2つの新期造山帯の結節地である。最初に見えた火山が、2018年5月に爆発し、噴煙を5500m上空まで到達させたメラピ山である。富士山を思わせる美しい容姿であった。どの観光地でも少年たちに取り囲まれた。彼らは、そこまでの価値があるとは到底思えない、簡単な土産物をそれぞれ手に持ち、我々が日本からの観光客だとうしてわかる

のか、「shenen -」と叫びながら近づいてきた。とても日本では喜ばれそうもない品々に、さすがに購入はできなかった。一つ売れば家族全員の何十日分の食費になるのだろうか。四半世紀が過ぎ、体感した国がどのように変化しているか、もう一度訪ねてみたいと思う。しかし、私の状況の方が大きく変化し、簡単には実現できそうもない現実がある。

『Time goes by.』

仲川 武雅

教師として新設校の北海道岩見沢高等養護学校に赴任してから、

三十八年の年月が過ぎる。時間が経つのは本当に速いものだと思感している。教師になった頃まではコピーはまだなく、すべて自分の手で書き写すことが必要だった。時は過ぎて、タイプライターやワードプロセッサ、そしてコンピュータが登場した。インターネットの普及で、ウェブサイトから必要な情報を見つけることができるようになった。便利になった分、余計な時間をかけなくてもよくなったが、途中で整理・理解・判断・記憶する等の大切なプロセスがすっかり抜け落ちてしまっている。好き嫌いとは関係なく、いろいろなことに挑戦することに意味がある。成功や失敗を通